

年	組	名前
---	---	----

空き家バンクへの登録に向け、現地調査をする（左から）上平将義さん、越名秀樹さん＝国東市武蔵町



国東へIターンの市職員2人

移住促進先輩が一役

国東市へIターンしてきた市職員2人が自らの移住経験を生かし、空き家を活用した移住促進事業に取り組んでいる。都市生活者の視点で気付いた生活上の難点を率直に伝えながら、ニーズに応じた空き家を提案。実際に移住した人からは「同じ境遇で信頼できた」と評価の声が上がっている。県によると、移住者自身が市町村の移住促進事業に主として取り組むケースは、県内では他に竹田市しかないという。

空き家情報を集め希望者に紹介

都市生活者の視点を生かす

2人は、いずれもデザインの仕事をしてきた上平将義さん(40)と越名秀樹さん(40)。今年4月にさいたま市から安岐町へ転居、越名秀樹さん(42)は同6月に愛知県から武蔵町へ転居。地方活性化のため、都市部からの移住者の力を借りる総務省事業「地域おこし協力隊」の隊員として市に採用された。上平さんと越名さんは「移住後の『カルチャーギャップ』を住まないように役割を果たしていききたい」と意気込む。県集落応援室の工藤慎也主査

現在、市政策企画課に所属。(37)は興味深い取り組みで、空き家情報のデータベース「空き家バンク」充実のための調査や交渉、移住希望者の紹介業務を担当している。同課は「移住経験があるため、説明に説得力がある」と期待する。横浜市から国見町内の農村地帯へ転居した山田博之さん(43)、ちふみさん(42)夫婦の例でも、2人はマイナス面を含め丁寧に対応した。山田さん夫婦は6月、市内の2軒を候補に選び、現地へ

納屋や家庭菜園用の畑などを備えている家が条件だったが、想像と違い断念。結局、「見てもませんか」と勧められた予定外の3軒目に決めた。山田さん夫婦は「要望に合う物件をイメージしてくれ

(2013年11月20日朝刊21面)

国東市へIターンしてきた市職員2人が自らの移住経験を生かし、空き家を活用した移住促進事業に取り組んでいます。

① Iターンとは何ですか？

.....

.....

.....

.....

② 都市から地方へ移住する魅力は何だろう。考えてみよう。

.....

.....

.....

.....

③ 地方のマイナス面は何だろう。考えてみよう。

.....

.....

.....

.....